12　赤松商店

《久留米籃胎漆器衝立》　一基

昭和三年（一九二八）

竹、漆塗

総高一六八・五　総幅一八七・〇

久留米籃胎漆器は、福岡県久留米市を中心に明治二十年（一八八七）頃より生産が始まった当地の伝統工芸である。籃胎漆器とは、竹籠を素地として漆塗りを施したもので、竹の編み目の美しさに漆塗りの艶が組み合わされた独特の雅趣を備えた堅牢な漆器である。久留米市では棚や卓のほか食器などの日用品まで様々なものが作られ、明治四十年代には海外に販路を拓くなど発展し、昭和初期には盛んに生産された。

本作は、昭和の大礼に際して久留米市より昭和天皇へ献上された衝立で、各部分にそれぞれ網代編や六つ目編など各種の編み目を配して変化を見せている。衝立の折り目は表裏の両側に開くよう、蝶番の代わりに絹の平紐で綴じ付けられており、背面に「赤松商店謹作」の蒔絵銘がある。赤松商店は、明治十六年に旧久留米藩主有馬頼咸の出資により、旧藩士のために設立された授産会社、赤松社がその前身である。赤松社は、設立当初は久留米絣、傘などを製造しており、明治四十一年に赤松社が解散した後、有馬家直営による赤松商店として再出発し、籃胎漆器を中心に手がけるようになった。昭和初期には久留米籃胎漆器合資会社（久籃社）と並んで久留米籃胎漆器の中心を担い、昭和二十年（一九四五）まで存続した。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

大礼 ― 慶祝のかたち
三の丸尚蔵館展覧会図録No.85

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　黒川廣子
発行　公益財団法人　菊葉文化協会
令和元年九月二十一日発行
©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan